



恩人の皆様

まもなくクリスマスです。皆様に心からのごあいさつを送り、良いクリスマスを迎えられるようお祈り申し上げます。主イエス・キリストの誕生という人類の歴史を変えた大きな出来事、キリストは再び私たちのただ中に来られます。昨年よりも、より良い世界を見いだしてくださいませんか。

今年も、喜びや悲しみの出来事がさまざまありました。いつも変わることがないのは、より良い世界になるようにという願いです。イエスが私たちに築き上げることを望まれる世界、十字架上でのちをささげて開かれた世界です。

ネルソン・マンデラ氏は私たちに貴重な教訓を与えてくれました。肌の色、民族、宗教、文化の違いを受けとめながら他者に心を開き、共に生きていこうとする意志、ゆるす心、自分の中にとどまることなく他者に手を差し伸べることこそ、人間らしく生きられる道だということ

です。

マンデラ氏の言葉です。「教育は、世界を変えるための最強の武器です。」これはまさに、私たちがDBKを通して行おうとしていることです。

今回のDBKだよりでは、日本の皆さんの支援によって、スーダンで新しい自動車の人々の生活・教育のために大活躍している様子、サレジオ会フィリピン南管区のジョージ神父より台風被災者に継続的な支援が行われていること、ボリビアで貧しい子どもたちが未来を切り開こうとしている様子をお伝えします。皆様は支援を通して、助けを必要とする兄弟姉妹のためにイエスの手、イエスの足となっておられます。このことが、皆様の大きな喜びとなりますように。

二〇一四年も、皆様とご家族お一人おひとりの上に、神様の豊かな恵みと祝福がありますようお祈り申し上げます。

代表 チブリアニ・アルド神父

二〇一三年十二月十七日



スーダン

四輪駆動車の プレゼントに感謝

前回の「DBKだより」で、スーダンのミッションのため、悪路に耐える車が必要と、現地で活動するドナー・ティ神父の願いを載せたところ、大きな反響（六〇〇万円）があり、さっそく一台分（四五〇万円）を送金できました。皆様に、心より感謝申し上げます！ スーダンのサレジオ会事業の責任者より、感謝の言葉と報告が寄せられました。

二〇一三年十月に到着したトヨタ四輪駆動車は、南スーダン、ジュバの宣教地の活動になくてはならないものになっています。こちらの道は舗装されておらず、特に雨季はひどくぬかるみ、普通の車ではすぐに立ち往生してしまいます。ここ聖ヴィンセンシオ・ア・パウロ小教区で、司祭や協働者たちの遠隔地の村訪問のため、学校の生徒、病気の人、最も貧しい人々の移送や訪問の手段として大活躍しています。皆様の貴い支援に心より感謝申し上げます。

スーダンでは車をもう一台必要としており、皆様の献金からさらになる支援を行う予定です。



ぬかるんだ道に立ち往生するトラック



協働者を乗せていざ出発



川ではなく道です

フィリピン被災地より

感謝をこめて

先ごろ皆様からお寄せいただいた緊急支援金からさしあたって二〇〇万円を、セブ島、レイテ島など台風被害を受けた地域を管轄するサレジオ会・フィリピン南管区へ、早速送ることができました。管区長ジョージ神父より感謝の手紙が届きました。

フィリピン史上最強の台風の被災者のため、一九、六五七・八六ドルにも及ぶ皆様の寛大な献金をありがとうございます。家屋や建造物の被害は復旧できますが、胸が痛むのは愛する人々を失い家庭生活が打撃を受けたことです。サレジオ会フィリピン南管区は、救援・復興プログラムの対象となる四つの地域、セブ北部、東サマル、レイテ州、ア克蘭州を特定しました。

現在までに、これらの地域に救援物資のバック約四万七千個を送りました。物資の配給は台風が直

撃した十一月八日の後まもなく始め、今も続いています。十二月末までにさらに二万バックを送る予定です。多くの方々が心を寄せてくださったおかげで、十二月まで続けるという目標を超えて、さらに支援ができることになりました。必要とされるかぎり続けたいと願っています。

今私たちは、より困難な復興の段階に入りました。二千戸の家の修復、十の学校の復旧、そして一つの地区全体の復興に取り組みます。東サマルとア克蘭州の被災した家屋の修復を支援、東サマルでは三つの地区の六〇〇の家屋を支援対象に定め、ア克蘭州では、六つの町の六〇〇の家屋の修復が始まっています。セブ島北部では、三つの小教区がまもなく始まる家屋修復事業の受益者になります。復興計画には、レイテ島パロの最も大きな被害を受けた海沿いのカンダハグ地区の支援計画も盛り込まれました。三六〇戸の家を修復する予定です。小学校、教会、多目的ホールも再建します。ホールは地区の医療センター、デーケア・センター、集会所の役目も果

セブ島北部



▲ 台風の通った跡



◀ 救援物資をもらって

たしています。パロの自治体の全
面協力も得ています。
感謝をこめて。神様の祝福が皆
様の上にありますように。

フィリピン南管区長

ジョージ・ミリタnte神父

レイテ島

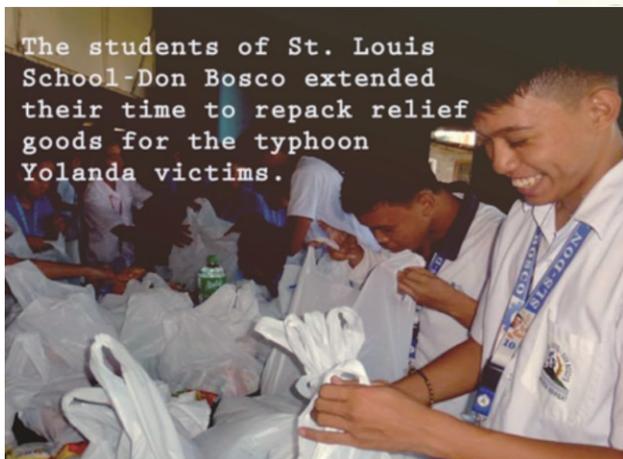


◀ セブのルルドの聖母教会で
救援物資を梱包する若者たち



▲ レイテの教会

東サマール



▲ 救援活動に参加するサレジオ会セント・ルイス高校の生徒たち



▲ 被災者に救援物資を届ける

ボリビアより

感謝をこめて

クリスマスと新年のおよごびを申し上げます。

平成二十五年度も皆様の愛の手を差し伸べていただいたおかげで、三つのカトリック擁護施設（園児数約五〇〇名）に食糧（野菜、豆、お米）を届けることができました。心から感謝申し上げますとともに、今後とも継続的な援助ができますようご支援のほど、よろしくお願い致します。

世界には、実にたくさん助けを必要とする人々があります（東日本大震災被災者、フィリピン台風被災者など）。あの国は貧しい国、あの人は貧しい人と言ったときの規準は、一人一日一ドル（一〇〇円）以下で暮らしている人を指しています。ボリビアでは、労働者の月給は平均二〇〇ドル、公務員・警察官（二〇年勤務）の給料



物乞いのおじさん
カメラを向けると笑顔で応えてくれた

も二〇〇ドルで、家族は平均七人です。ですから、公務員の家族も一人一日一ドル以下の生活となります。警察官も勤務時間外に副業としてタクシートの運転手、左官、夜警などの仕事をして家族を支えます。ボリビア国民八〇〇万人のうち二〇〇万人が慢性的な栄養不足にあります。そして多くの少年少女が学校に行けず、新聞売り、車の見張り、お菓子売りなどをして家計を助けています。

このような状況の中、ボリビアのサレジオ会は数年前から「プロジェクト・ドン・ボスコ」を立ち上げ、日本の三倍の面積をもつボリビアの学校のない貧しい地域に学校建設を行っています。皆さんの支援は学校建設だけでなく、教師の給料としても役立たせていただいています。

また、皆さんの支援のおかげで夢に向かって頑張っている若者たちがいます。セバステリアン（高二）とサラ（高一）の兄妹は、ドン・ボスコ高校の午後の部（公立として授業料が安い）に通っています。二人の家は寒村にあり、朝からバスに一時半揺られて通い、授業が終わるとサークル活動、家に帰るのは十時ごろになります。セバステリアンは学費のかからない兵



車の見張り番の子どもたち
お弁当をもらってひと休み

学校へ進学を希望、サラは将来を模索中。いとこ同士のアンナ（高三）とパウロ（中三）は大変優秀で、修道女会が運営するサンタ・アンナ高校と、ドイツ学校という、優秀な子どもたちの通う学校でそれぞれ学んでいます。アンナの夢は石油公団に勤めること。国の富を国民のために活かす貢献をしたいと願っています。

皆さんの支援は子どもたちに未来を夢見る希望を与え、国の宝である子どもたちを支援することによって、ボリビアのよりよい未来の建設にも貢献するのです。

一日も早く、神様がお望みになる幸せな世界が訪れることを祈りたいものです。

ボリビア宣教師

倉橋信輝神父

（サレジオ会員）

DBK だより 第12号

2013年12月17日

発行人:チプリアニ・アルド

発行所:サレジオ管区本部

〒160-0011 東京都新宿区若葉1-22-12

Tel:03-3353-8355 Fax:03-3353-7190

dbk-gia@donboscojp.org

ご寄付くださる方は以下にお振り込みください。

郵便振替 口座番号

00100-4-560725

加入者名

発展途上国援助・ドンボスコ基金

